

# 視察参加報告書

令和8年2月9日

会派名 公明党市議団

会派代表者 野下 達哉

(参加者：石原 資泰、岡地 清仁)

視察参加の結果について、次のとおり報告します。

年月日	令和8年1月27日(火)
視察時間	午前10時00分～午前11時30分
視察場所	長崎県 大村市役所
視察項目	「しあわせ循環コミュニティ事業」について
目的	長崎県大村市の「しあわせ循環コミュニティ事業」について、行政と市民が連携した地域づくりの仕組みや運営手法を調査し、江南市における地域共生社会の推進や、今後のまちづくり施策への応用可能性を検討することを目的とする。
内容	<b>【大村市 調査事項】</b> 1. 市の概要について(大村市議会 小林 史政議長) 2. 議会概要について(大村市議会 小林 史政議長) 3. 大村市しあわせ循環コミュニティ事業について (大村市企画制作部デジタル推進課 東 賢一課長)
所感	<p>長崎県大村市が取り組む「大村市しあわせ循環コミュニティ事業」は、地域課題を行政単独で解決しようとするのではなく、市民・団体・事業者等の多様な主体が関わり合いながら、「しあわせ」が地域内で循環する仕組みを構築しようとする点に大きな特徴があると感じた。</p> <p>特に、地域の困りごとや想いを丁寧に拾い上げ、それを具体的な活動や支援につなげていく伴走型の姿勢は、行政が果たすべき新たな役割を示しており、単なる制度設計にとどまらない実践的な取り組みであると評価できる。</p> <p>また、地域活動を一過性のものとせず、人材育成やネットワークづくりを通じて継続可能な仕組みとしている点は、人口減少や地域の担い手不足といった全国共通の課題に対する有効なモデルであると感じた。</p> <p>「支援する側・される側」という関係ではなく、誰もが役割を持ち、地域に関わることで互いのしあわせが循環していくという考え方は、今後の地域づくりにおいて重要な視点である。</p> <p>本市においても、地域コミュニティの活性化や住民主体のまちづくりを進めていく上で、本事業の考え方や手法は大いに参考になるものであり、地域特性に応じた形での導入や展開について検討していきたいと考える。</p>